「4・14集会」名称と個人名での「解散宣言」とに対する疑問

「民主主義」を唱えるにとどめず、日々の活動・行動での実践を

★日本赤軍によるハーグ闘争被告（逮捕・監禁・殺人未遂）・和光晴生

集会の経緯について 民主的な捉え返しが必要ではないか

重信さん救援・支援活動に関わろうとの意向のある方々によって、四月一四日に開催された「重信房子さん訪日歓迎集会」について、その集会名称に疑問や批判を表明する声が、情報過疎の獄中にある私の耳にも複数の方面から伝えられてきました。

それらの声はかなり早い時期からあがっていたようです。にもかかわらず、訂正されることなく開催に至ったようです。「歓迎」とカギカッコが付された文書もあったのは批判の声を考慮してのことなのか、私には分からないことです。

いずれにせよ、私個人としても、「訪日」とか「歓迎」とかの話は、この間のガサ入れや逮捕等の弾圧の巻き添えとなった方々のことを考慮したら、適切とは見なせません。

「支援活動は楽しくやって欲しい」との重信さんの意向を受け、はしゃいだ感じを出そうとしたのかも知れませんが、社会性の欠如と非常識かつセンスの悪さを感じさせます。限られた仲間うちだけでの集いならまだしも、協賛団体を無理して募ろうとするような努力もなされていた以上、より常識的な集会名を採用すべきだったのではないでしょうか。結局、協賛団体名を掲げることは取り止めになったようで、その経緯も気になります。

ここで問いたいのは、このような集会名を採用・決定するプロセスがいかなるものとしてあったのか、ということです。当初、実行委として顔を合わせた少人数のアイディアで決定し、その後出た不評については考慮に入れずに済ましてしまったということなのでしょうか？民主主義の徹底

民主主義を目指すなら「解散」も民主的にするべき

次に、重信さんの四・一四集会へのメッセージでも、四・二三初公判での意見陳述でも発せられている「解散宣言」について―。

私自身、日本赤軍は解散声明を発すべし、との提起を行ってきたわけですが、なぜ組織名によってではなく、個人名をもって「解散」を宣言したのか、大いに疑問なことです。獄外の意向を踏まえているのだけれども、その経緯についての説明を端折ったということなのか。つまり、獄外による組織的な決定はすでになされていて、それを個人名で発表するという「方針・政策」のもとに行ったということなのか。それとも、全くの個人レベルで発せられた「宣言」なのか不明であり、「宣言」自体の有効性が判じ難いのです。

組織の解散を個人名で行うというのは異常なことです。そういう認識を本人は抱いているのかどうかすら不明です。

はっきり言って、これでは解散決定権の私物化です。そんな権限が個人に与えられている規約があるというのなら話は別ですが、それならそうで世にも非常識な規約ということになってしまいます。

いずれにせよ、重信さんが四・一四集会と四・二三公判で発した「解散宣言」は、そのまま「日本赤軍は重信私党でした宣言」ということになります。「そんなつもりではないのだ」と言うなら、まずは個人の意見、他のメンバーへの「よびかけ」として発せられるべきであり、正式の「解散宣言」は獄外主体に委ねられるべきでした。そうでないところでは、解散すらまともに果たせない、常識が欠如した、民主主義も未成熟なままにあった集団、まさに秘密主義の密室政治・陰謀集団ということになってしまいます。

うがった見方をすると、実はとっくに「日本赤軍」は「人民革命党」に改組済みなので、偽装解散として個人名による「日本赤軍」の「解散宣言」を発する形を採用したのだ、という勘ぐりすら可能です。

とにかく獄外主体は、重信さんをはじめ獄中、獄外の多くのメンバーの意向は集約できているのでしょうから、本当に解散の意向が決定的であるのなら、清算事業・継続課題等の整理と方向付けを果たした上で（この手当てがない限り、一方的リストラ・計画倒産と見なされます）、正式に組織として「日本赤軍―人民革命党」の「解散宣言」を発すべきです。民主主義を目指すなら解散を民主的に課す必要があります。徹底的に！

（小見出・編集部）

●時評●
●短評●
●私の直言●

大阪・島本町長選挙を振り返って
ここぞというときに団結するには まだまだ時間がかかるのか？

◆島本住民

四月一五日投票で島本町の町長、並びに町会議員選挙が実施された。マスコミがこぞって女性が議会の半分を占めるかどうかを面白がって報道していた選挙である。

住民にとって最大の関心は町長選挙であった。「ひょっとしたら町が変わるかもしれない！」との感を抱かせてくれた選挙であった。現町長派に対抗して、町議を三期つとめた住民運動出身の南部さんが急きょ出馬したからである。結果は負けたが、そう遠くない時期に町を変える町長が誕生する！そんな可能性を確信させるに足る町長選挙であった。

現町長派の危機感は相当なものだった。選挙戦の初めから終わりまで、政策論争など何もなく、ひたすら「過激派、あんな人に町を任せたら大変なことになる」と、個人攻撃に終始した。町に寄生する利害団体、グループ、業者にとって、現秩序の維持は死活問題にかかわる一大事。南部さんの政治へのスタンスは住民の目線と同じ。女性候補。それに長野県、直前の千葉県知事選挙の結果にみられるように、新たな政治のあり方を求めた住民の動きは止まることない流れとなってきていることも、彼らを危機感に駆り立てた大きな理由。

国にはじまり地方に至るまで、土建業者、利害団体、税にたかる一部の者によって都合よく運営される行政などもうたくさん、という雰囲気は強くなってきているように思える。「福祉と健康」「住環境」「子供と教育」等の課題が住民にとって身近な問題になる中で、町政への関心が確実に高くなっている。発言する人たちの存在も増えてきた。

実際、町長が変わっても不思議でない状況であったが、残念ながら二〇〇〇票あまり差をつけられ次点であった。総投票数は一五〇〇〇票。当選町長は六五〇〇票あまり。善戦したともいえるが、チャンスを活かせなかった大きな原因は、住民運動派のリーダー間に前からあった個人的な私憤（理由は知らないがどうせ些細なこと）での不協和音が選挙中も払拭されなかったことであろう。

「小異を捨てて大同につく」ことがなかなかできない現状は、かっての学生運動を思い出してしまう。わずかな違いばかりを強調してお互いが張り合う。そのことにエネルギーを消耗して終わってしまう。ここぞというときに団結するにはまだまだ時間がかかるのか！運動に足りない観点が何なのか？と考えさせられた選挙でもあった。

絶賛発売中
くたばれ！自民党
―13の症候群―
鎌田慧

「これは社会を腐敗させた自民党にたいして、お前さんたちはこんなことをやってきたんですよ、という証拠記録であり、論告であり、判決である」（本書「あとがき」より）

定価 本体一七一四円＋税

2001年6月
定価480円
年間5,760円

記録

●好評連載●
光州への旅 藤本 治
歴史の闇へと葬りさられようとしている虐殺を徹底追求。
奇書発掘 塩山芳明
こんな面白い書評があっただろうか。辛口の塩山節炸裂！
倒産そごうの町を往く 赤石晋一郎
倒産はどのように庶民の生活を変えるのか。

大好評連載中
鎌田慧の現代を斬る

東京都千代田区神田神保町3-21 英弘ビル2F
株式会社アストラ 月刊『記録』編集部
TEL03-3288-3946 FAX03-3288-3947